

令和4年度

藍住中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎・基本の定着と思考力・判断力・表現力の育成
- ②主体的に学習に取り組む態度の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長	西山伸二
戸出 剛	教頭	大西仁史	手塚博也
	学年主任	小泉美和	原口良澄 佐藤健志

校長

西山 伸二

【小中連携における共通の取組】

児童・生徒の学ぶ意欲の向上のための授業改善(教員間の授業参観・振り返りシートの活用など)

【各校における実行プランの取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉えて取組状況を把握する。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的基本的な知識・技能の習得のため、課題に真面目に取り組む生徒が多い。 ●入学時から学力に二極化が見られ、全体として読解力に課題がある。	・授業で学習した内容を概ね理解することができる。 ・基礎的基本的な知識・技能を確実に身につけ、定着させることができる。	・毎学期、互いに授業参観を行い、タブレットの効果的な活用方法等について研修を行う。 ・単元の終了後に小テストを行うなど、スモールステップで復習させ、知識・技能を確実に習得させる。	タブレットの使用頻度を増やし、メガビットを使用するなど効果的に使用し、スモールステップで定着できるようにする。また、定着できていない生徒に対してきちんと定着できるような方策を考える。	・ICT を利用したり、生徒にタブレットを使用させる時間を作ったりすることができた。 ・小テストを行い、スモールステップで復習する機会を作ることができた。	教科部会を定期的に行い、タブレットを使った場面や成果を共有したり、使える場面などを検討する。また、タブレットでナビマを使用し、個々にあった学習をしたり、小テストを行ったりし、生徒が基礎・基本が定着できるよう努める。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学んだ知識・技能を活用して課題を解決しようとする意欲がある生徒が多い。 ●根拠や理由を考えて判断したり、表現したりすることが苦手な生徒が多い。	・文章、図、表の内容を理解して、知識・技能を活用して、正しく判断することができる。 ・授業で学んだことをもとに、自分の意見を根拠や理由を考えて表現することができる。	・学力向上確認プリント、ステップアップテスト、全国学力調査の問題を活用して、判断力を培う。 ・根拠や理由をわかりやすく表現する方法を指導し、定期テスト等で表現させ、自信を持たせる。	班学習やペア学習の機会を増やし、根拠や理由を表現させるような活動をより多く取り入れ、慣れさせる。	・ステップアップテストやプリントを利用して、反復練習することができた。 ・根拠や理由をわかりやすく表現する学習を授業やテストに取り入れることができた。 ・「自分の考えを文で書いたり人に話したりすることができた」と75%の生徒が答えた。	主体的に学ぶ力を育てるために、対話やグループワークでの話し合いの機会を多く取り、思考力・判断力・表現力を養い、生徒が学びとる授業ができるような授業を展開していく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ほとんどの生徒が落ち着いて真面目な態度で授業に取り組むことができている。 ●家庭でゲームやスマホをする時間が長く、家庭学習が定着していない生徒が少なくない。	・授業内容の中でわからないことや疑問に思ったことをすすんで質問したり調べたりしてすすんで理解しようとする。 ・目標を持って毎日の自主勉強ノートや宿題を学力向上を目指して取り組もうとする。	・生徒の学習活動に対して全教員がポジティブな行動支援(SWPBS)を継続し、学習意欲を高めていく。 ・自主勉ノートや課題の提出物を確認して、学習がより充実したものになるよう個別の助言を具体的にを行う。	学習する際生徒が困っていることなどアンケートをとり、学習方法ややる気の出るような方法を全員で共有する。	・学習方法ややる気の出るような方法を助言することができた。 ・ノートやワークを提出させて指導・助言を行うことができた。 ・「授業で分からなかったことや疑問に思ったことを、質問したり調べたりすることができた」と59%の生徒が答えた。	教員は、生徒の声(意見など)を聞いたたり、ICT を活用したりするなどして個別最適化を図れるように努める。また、生徒がより教員に質問しやすい環境を作ったり自分で調べたり、学習にやる気の出るような方策を考える。

令和4年度 学力向上ロードマップ

